

La genèse de *Thésée* (1782), tragédie lyrique de F.-J. Gossec

F.-J. ゴセックのトラジェディ・リリック《テゼ》(1782年)の制作過程と上演について

坂手佳絵

18世紀から19世紀初頭にかけてのフランスで活躍した作曲家フランソワ・ジョゼフ・ゴセック(1734-1829)は、交響曲及び革命期の音楽の作曲家として認識されてきたことにより、オペラ作曲家としての側面に焦点が当たってこなかった。ゴセックの二作目のトラジェディ・リリック《テゼ》に関する詳細な研究は、現在に至るまでほとんどなされていないと言ってもよい。本論では今回新たに見つかったフランス国立図書館やパリ国立公文書館に保存されている資料や『メルキュール』誌など、当時の印刷物の検証に基づき、《テゼ》の制作過程および上演に至る経緯についての考察を行った。

現在までに発見された資料の中で《テゼ》に最も早く言及しているものは、1778年の『メルキュール』誌(8月号)である。そこにおいて《テゼ》のリハーサルが予告されており、この時期すでに作品が完成していたことを示している。にもかかわらず実際に作品が上演されたのは1782年3月であり、そこには約4年間の空白があることが明らかとなった。本論ではこの空白期間の存在について、残された資料から可能な限りでその理由の解明を試みた。その結果、《テゼ》の制作から上演に至る複雑な過程のみならず、ルイ16世治下フランスの王立音楽アカデミー(特に幹部である委員会 *le comité*)と作曲家や音楽家たちとの関係——お互いの思惑が飛び交い、初演日や再演も簡単に変更させられる状況——あるいは、作曲家同士の関係——例えば力のある者が良い台本を得ることができた——、トラジェディ・リリック成立時同様、外国人作曲家(グルック、ピッチンニ他)が台頭する姿などを明らかにすることができた。このような状況の下、ゴセックが《テゼ》上演のために否応なしに翻弄され、オペラ作曲家としての地位を確立するために苦心する様子が浮かび上がってきたのである。